

2 大阪・関西万博のテーマ

繰り返しますが、この万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」ですが、「いのち」を考える3つのサブテーマが重要です。

Livesの意味

この万博には、次のサブテーマが設けられています。

「いのちを救う Saving Lives」「いのちに力を与える Empowering Lives」「いのちをひなぐ Connecting Lives」。

英語のLivesには、「生活」や「人生」の意味がありますが、日本語のサブテーマでは「いのち」という言葉が使われています。しかも、この「いのち」は、人間だけではなく、生物や自然など、あらゆるものについていっているのです。

- ・いのちを救う…自然との共生の他、感染症対策や、防災・減災の取り組みなども含まれている。
- ・いのちに力を与える…生活を豊かにしたり、可能性を広げたりすることに焦点を当てたもの。例えば、情報通信技術を活用して質の高い遠隔教育^{＊1}を提供したり、スポーツや食を通じて健康寿命をのばしたり、AI（人工知能）やロボッ

- ト工学を活用して人間の可能性を拡張したりすることなどが挙げられている。
- ・いのちをつなぐ…一人ひとりがつながることでコミュニティを形成し、豊かな社会をつくることを目標としたもの。このサブテーマの中では、パートナーシップや情報通信技術によるコミュニケーションの進化などが具体的なキーワードとして挙げられている。

「いのち」と向き合う

近年、日本でも格差や対立の拡大、長寿化などが大きな問題になっていきます。そうした中で、大阪・関西万博は、参加者それぞれに対し「幸福な生き方とは何か」を問う初めてのものになるといわれています。また、2020年初頭から広まった新型コロナウイルス感染症は世界中に大きな影響を与えましたが、大阪・関西万博が、この危機を乗り越えた先にある新たな時代（withコロナ^{＊2}）に向け、自分と他者、あらゆる「いのち」に向き合う持続可能な社会を模索する場所になると期待されているのです。

*1 広い意味では、テレビやラジオ、郵便などを利用した通信教育も含むが、近年では情報通信技術（ICT）を利用した「オンライン教育」と同じ意味で使用されることが多い。遠隔教育（オンライン教育）では、スマホやパソコンなどを使用し、インターネットを通して、場所や時間にとらわれないことなく授業を受けることができる。大きく二つの方法があり、生配信のような配信方法（同時双方向型）と、録画した授業を配信（オンデマンド型）する方法がある。

*2 新型コロナウイルスのパンデミックが長期化し、今後も流行する可能性が高いと予想されたことから、新型コロナウイルスとの「共存」「共生」という意味で使用されるようになった俗語。